令和5年度第1回兵庫県環境審議会水環境部会議事概要

日 時 令和5年5月2日(火) 14:00～16:00

場 所 兵庫県民会館3階 303号室 (Web会議併用)

議 事

審議事項

瀬戸内海の環境の保全に関する兵庫県計画の改定について

出席者 兵庫県環境審議会水環境部会委員

部会長 藤田 正憲
委 員 伊藤 勝正
委 員 大久保規子 (オンライン)
委 員 川井 浩史
委 員 小林 悦夫
委 員 杉山 裕子 (オンライン)
委 員 泥 俊和
兵庫県環境審議会水環境部会特別委員
委 員 阿保 勝之 (オンライン)
委 員 反田 實
委 員 突々 淳
委 員 藤原 建紀

(敬称略)

説明のため出席した者

環境部長 菅 範昭
環境部次長 上西 琴子
水大気課長 山本 竜一
その他関係職員

【議事】

瀬戸内海の環境の保全に関する兵庫県計画の改定について

(事務局から資料1について説明)

(藤田部会長)

ただいまから、計画案につきまして委員の先生方からご質問、ご意見等お伺いしたい。特に前回の発言を取り入れた修正が行われているが、そのあたりについてそれでよいかどうかを含めてコメントいただければと思う。

(小林委員)

3ページの10行目の「有害プランクトンによる赤潮」について、突々委員からの指摘で、「有害プランクトンによる」を追加されたが、有害プランクトンによる被害はあるが赤潮まで発生していない状況というのがあるのではないかと考えたときに、「有害プランクトン」だけで「赤潮」ということを入れる必要性があるのか。

(突々委員)

確かに赤潮状態に見えないようなところでも漁業被害が出てるということは、実際にあると思う。その時に、漁業被害が出たら全部赤潮とカウントされてるかということが問題になってくると思う。

(水産漁港課)

まず、春によく出る貝毒プランクトンは、渦鞭毛藻ですが有害プランクトンで一定密度以上に発生しないと貝毒を引き起こさない。少数発生でも有毒な種類もあるが、県の監視では、一定量発生すると貝毒の懸念が高まるということで、(注意喚起を行うなど対応をしており、)この原案のままで結構と考える。

(藤原委員)

28ページの26行目の基盤的な政策に関する指標で、「県民会議(仮称)の参加会員数」とあるが、8ページの11行目には「県民会議を作る」というようなことが、全く書いていないので、県民会議を作るのであれば触れておいた方がよいと思う。

(事務局)

23ページの施策に、県民会議を設置し推進していくという旨の表現を付け加える。

(藤原委員)

18 ページの 14 行目の図 9 のキャプションですが、「ひょうごフィールドパビリオンの取組の例」とあるが、「の取組」はないほうがよいと思う。

(事務局)

「ひょうごフィールドパビリオン」は県内で 113 件選ばれている中で、海に関わる取組としてこの二つを入れさせていただいた。表現は精査させていただく。

(藤原委員)

18 ページ 4 行目は、「ひょうごフィールドパビリオン等の取組を推進する」とあるが、「ひょうごフィールドパビリオン」自体が取組の例になっているとすれば、(図 9 の表現と) 整合性がとれない。

(藤田部会長)

18 ページの図 9 のタイトルは、「ひょうごフィールドパビリオンの例」でよいか。

(事務局)

それでよいと考える。

(大久保委員)

23 ページの 2 行目は県民総参加というふうに「総」という文字が入っているが、26 ページ 4 行目や 28 ページの指標では、「県民参加」とある。「県民総参加」と「県民参加」を使い分けられているのか。特に使い分けていないのであれば、どちらかに統一したほうがよい。

(事務局)

特に分けてるものではない。県民総参加という言葉で、統一します。

(藤田部会長)

事務局としては県民総参加の「総」が、大事だということで、数%の人が参加ではなく、全員が参加してもらいたいという意気込みということで理解したいと思う。

(反田委員)

5 ページの 1 行目「底質環境等の改善等」について、これは大阪湾奥部のような場所の底

質の問題と貧栄養化が進む大阪湾西部と播磨灘の問題に分けられている。5 ページの「底生生物二枚貝等の増加を促進するための適切な底質改善が図られている」ことに対応する施策は、11 ページのどの部分と対応しているのかがわかりにくい。

(水産漁港課)

どの対策が、どの効果につながるか、なかなか判別しにくいところはある。11 ページの浚渫や覆砂は、実施する海域の状況によって、効果が違ってくるし、相互に作用し合うものもあるので、11 ページでまとめて記載していると理解している。

わかりにくいのであれば、それぞれに対応するような書き方はできると思うが、少し重複して書くことになるので、原案が適切と考える。

(藤田部会長)

底質環境等の改善等は、施策の組み合わせ等いろんなことが書かれているからなかなか分けがたい。

(反田委員)

例えば、流況改善になるように港湾施設の整備の場合は配慮するとか、深掘り跡の埋め戻しとか、河川の浚渫というのは、どちらかというとお大阪湾奥の目標と対応している。

この表現で致し方ない面はわかるが、底生生物や二枚貝等の増加を促進するための底質改善というのは、非常に難しいテーマなので、何か具体的なことをイメージした上で書かれているかを聞きたい。

(水産漁港課)

今のご指摘に関しては、総論的に実施内容が、ここに書いてるようなものを組み合わせるしかなく、そこを細かく分けて書くという視点では整理していないので、ご理解いただければと思う。

(反田委員)

記述を変えて欲しいということで話したわけではないので、それで結構かと思う。

(泥委員)

計画の点検の指標で二つほど教えていただきたい。

26 ページの環境創造型農業というのは、きちんとした定義があるのかどうかというのが1点。

それから、28 ページの気候変動等への対応に関する指標で一級河川流量というのを挙げられてますけれども、この豊水時の流量が増えたら影響があるのか、減ったら影響があるのか、或いは豊水時と平水時の差が大きくなれば影響があるのか、望ましい姿はどういったものかと考えるか。

(事務局)

一級河川の河川流量（豊水時及び平水時）については、国の方でも地域ごとの淡水流入量（豊水時及び平水時）というものを新たに指標としているため取り入れた。

気候変動によるゲリラ豪雨などが増えることが予想されるので、豊水時と平水時の差を見ていくための指標と考えている。

(農業改良課)

環境創造型農業は、自然循環機能を農業で生かす環境への負担を軽減するような取組で、具体的には、「土づくり」、「化学合成肥料の低減」、「化学合成農薬の低減」の三つの技術を組み合わせた農業を環境創造型農業と定義をしており、それを実施している面積を指標としてしている。

例えば、たい肥や有機質肥料を使うようなものを、「土づくり」としてカウントしている。

「化学合成肥料の低減」は、例えば、緩効性の肥料といったゆっくり溶けるものや、局所的な施肥といった化学合成肥料を低減するもの。

「化学合成農薬の低減」は、例えば、除草剤を使わない除草で、機械での除草やアブラムシに対してテントウムシを入れる生物農薬といったもの。

そういった様々な技術を組み合わせた農業で、それらの技術を取り入れた（農業を実施する農地の）面積を、環境創造型農業の実施面積とカウントしている。

(小林委員)

環境創造型農業に注釈を入れたほうがいい。

底質改善等について、5 ページで、生物、いわゆる二枚貝について触れているが、施策のところでは生物の関係が触れられてない。

水質・底質など、物性しか書いてない。生物に対する改善とか、対策っていうのを何か触れた方がわかりやすい。

(水産漁港課)

海底耕うんをすると海底の間隙水が増えて生き物が棲みやすいとか、一定の知見があるの

で、文章を変えさせていただく。

(事務局)

環境創造型農業の注釈を入れさせていただく。

(水産漁港課)

11 ページについて、「水質と生物は互いに影響及ぼす関係であり、また生物が云々」といったことを足させていただく。

(伊藤委員)

28 ページの指標のところ、豊かで美しいひょうごの里海づくりの普及及び県民総参加の推進について点検する指標として、県民会議の参加会員数だけでよいのか。

「豊かで美しい里海」や「里海づくり」についての県民の理解を深めるのが目的である。その変化をとらまえないといけないと思うが、そういった議論は何かあったか。

(事務局)

県民会議自体は、今年から立ち上げる。PR 等で県民会議自体の参加者をこれからどんどん募って行って、たくさんの方に参加していただき、会員同士をつないで行って、活動を活性化し、さらに会員数を増やしていくことを一つの目標にしている。

そういう意味で、ここでは参加者数を指標として上げている。

(伊藤委員)

里海づくりの取組は、今まで色々な形で実施してきて、携わる県民の数は増えてきていると思う。

ただ、アンケートをとると「里海」への理解が、ほとんど進んでない。参加者数の増はもちろん目指してもらいたいが、それとともに（里海への）理解がどれくらい深まったかという検証ができるような指標がいるのではないかと思う。

(事務局)

先ほどのこの資料の説明にもあったように近畿大学の日高先生や立命館大学の上原先生の協力を得てアンケート調査で、県民の里海への理解度を把握しようとしているが、まだ指標というところまでは確立できていない。

県民の意識を把握することを全くしないわけではなく、把握するため努力している。残念ながら里海の理解がなかなか進んでないということも把握している。

今後、県民運動の成果を発信したい考えているので、見守っていただけたらと思う。

(藤田部会長)

評価としてある程度、数値的なものを指標として出していこうとすると、参加者数など、つかめるものを出さざるをえない。

例えば「クリーンアップひょうごキャンペーンの参加人数」とか、数値を評価として使わざるをえない。

計画の議論は、今日で3回目になる。かなりしっかりと議論をしてきたし、その前に豊かな海の窒素、りんの話も含めて大分積み重ねて議論したから、こちらに参加している委員の方々は十分理解されていると思う。

その上での計画だと思うので、私は、これでよいと思っている。

水産漁港課の方は少し文言を付け加えるということで、その他にはほとんど修正はなかったように記憶している。

特段ご意見がないようなら、先ほど言った一部の文言の修正・追加するとして、これでパブリック・コメントに出してもよいのではないかと思うが、それでよいか。

(委員・特別委員)

異議なし。

(藤田部会長)

予定の議事については、以上で終了とさせていただきます。